

第 23 回オリンピック冬季競技大会視察記

齊 藤 文 彦

今年の第 23 回オリンピック冬季競技大会(2月8日～25日)は、羽生選手の連覇の他、高木選手姉妹、高梨選手、カーリング女子チームなど多くの道産子選手の活躍、冬季大会最多のメダル獲得が示すように記憶に残る大会となりました。ピョンチャン 2018 パラリンピック冬季競技大会(3月9日～18日)においても日本人選手が活躍し、合計 10 のメダルを獲得しました。多くの人にとって記憶に残る年になったと思います。

オリンピック/パラリンピックは、今回の韓国を皮切りに東京(夏季)、北京(冬季)とアジアでの開催が続き、札幌市が 2026、2030 での大会会場立候補に向けて検討していることもあり、現代の一大イベントの様子を探るべく、ドーコンより 2 名大会を視察してきましたので、その様子をお伝えします。

私は、2月9日から12日までの4日間、同行した伊藤傑技術士は、10日から12日までの3日間という短期間のため、限られてはいましたが、複数の競技やイベントを見学してきました。北海道・札幌市での国際的な大型イベントの開催時に参考になることが多々ありました。

1. 開会式： (ピョンチャンオリンピックプラザ)



開閉会式会場全景(プログラムガイドより)



開閉会式会場(外観は色が変化していました。)



開閉会式会場(日本選手団入場)

開会式は、大会を始める花形イベントです。各国の元首や首相級の列席のもと韓国の歴史を表現したマスゲーム(ダンスやパレード)が繰り広げられた後、選手入場、聖火点灯で大会が始まりました。テレビで観覧された方も多いと思いますが、会場は、観客席が 5 角形で中央部分全てをステージとした大型のスタジアムのような仮設の施設でした。中央のステージの床全体がプロジェクションマッピングのスクリーンでもあり、中央の迫(せり)から仕掛けが繰り出されたり、観客席の横に仕込まれた LED が文字や図形を映し出し会場すべてを使った光のページェントに会場は、盛り上がりました。会場外では花火が上がり、屋内外が一体となった演出は、文在寅大統領が挨拶していましたが、ICT オリン

ピックを意識した大掛かりなものでした。会場の外観は、シートでできており、内部照明により色合いの変わる施設として演出されていました。

当日は、言われていたほど寒くはなかったのですが、長時間のイベントですので、すべての席に帽子、ポンチョ、応援用具、座布団、カイロ、ペンライトなどが用意されるという充実の防寒対策が印象的でした。放送時間や演出の都合でしょうが、1972年の札幌のように、昼の開会式であれば、寒さはもう少し違ったかもしれません。

会場周辺には、スポンサーのパビリオンやメディアの仮設施設なども多数あり、メダルセレモニー(表彰式)会場として、大会シンボリックな場所でした。

この会場には、韓国版の新幹線 KTX のジンプ駅から無料送迎バスで 30 分程で行くことができましたが、入場時のセキュリティチェックは、かなり厳しいものがありました。ほぼすべての人がバスを利用することになることから、式典後は、かなり混雑が生じたようです。(私は、一足早く会場を出たため、大丈夫でした。)

2. ジャンプ競技： (アルペンシア スキー ジャンプセンター)



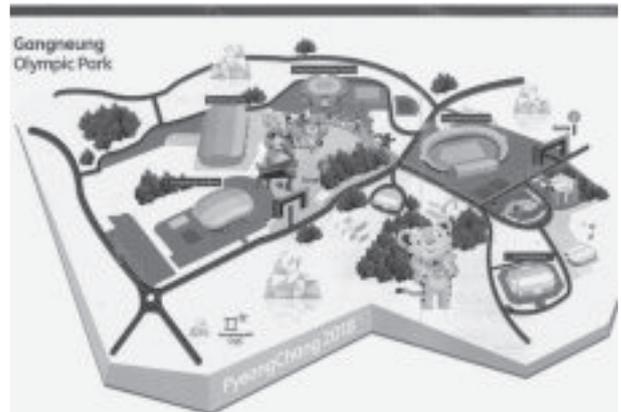
2本並ぶジャンプ台(まわりに岩が見えています。)

メダル獲得はなりませんでしたが、レジェンド葛西選手の出場が話題となったジャンプ競技を見ました。宇宙船のような円盤状の展望室を持つジャンプ競技場も開閉会式会場と同じ KTX のジンプ駅からバスで行くことができました。ラージヒル、ノーマルヒルのジャンプ台が並ぶだけでなく、す

ぐ近くでノルディック複合のコースやビッグエアのスロープも仮設で作られるなどノルディックとフリースタイルの一競技ができる会場でした。競技開始に合わせてゲートが開くため、大会公式練習時間近くまで、ゲート前の路上でかなりの人が並ぶことになっていました。

ヨーロッパのテレビ放映に合わせたともいわれましたが、夜 9 時過ぎからの競技ですので、いつ終わるかわからない、ハラハラドキドキの競技です。私たちの観戦した大会の翌日は、風で待機時間が重なり真夜中まで競技していたようです。近くに宿泊施設はありませんので、帰れないことを心配しながら応援するのは、なかなか覚悟がいります。ジャンプ台以外の山の斜面にはほぼ雪がなく周辺の岩山が印象的な会場でした。休憩やお土産などのスペースが小さいことや、観覧席よりもランディングバーン近くで立って応援する人が多かったことから、競技の特性に合わせた会場計画が可能だと思われました。夜空に光り輝くジャンプ台でした。

3. 氷上競技： (カンヌン オリンピックパーク)



カンヌン オリンピックパーク全景(プログラムガイドより)

ピョンチャン(平昌)オリンピックといわれていますが、カンヌン(江陵)に屋内競技はほぼまとまっています。スピードスケートも屋内で開催されるため、カンヌン オリンピック パークには、カーリングを含む 4 つの氷上競技施設が整備されています。これら施設は、仮設施設もあるのですが、その割に大型の施設が並んでいます。パークまでは、

駅から歩くと20分ほど、バスでは、10分くらいで着くくらいでした。ちょうど一つのテーマパークのような感じで、最初に手荷物検査のあるゲートを入場すると、4つの競技会場には、手荷物検査なしのチケットチェックだけで入れました。競技会場の他、企業展示や企業パビリオンも多数ありました。

(1) フィギュアスケート会場：



フィギュアスケート会場(外観)

羽生選手の金メダルに沸いた会場ですが、私たちは、団体戦予選を観戦しました。アイスダンス、ペア、女子シングルの演技を見る限り、冬季オリンピックの最も華やかな競技であり、オリンピック向けにしつらえられたルックと呼ばれる飾りつけが、気分を盛り上げます。驚いたのは、その音響でした。

大型施設で吸音が期待できない氷の面積の多い会場であるにも関わらず、コンサート会場以上に音響が優れており、低音から高音まで余分な残響時間や時間差を感じないことに驚きました。審査が音楽に



フィギュアスケート会場(内部)

よっても左右されるのではと思うほどのものでした。休憩時間に、空腹を満たそうとしたのですが、再入場できないため、エリア内の食堂に行けず、小さな屋台で待たされたのが残念でした。

(2) スピードスケート会場：



今大会の最大の屋内施設のスピードスケート会場



スピードスケート会場(内部)

フィギュアスケート会場に隣接していたのがスピードスケート会場でした。チームパシュートの行われたあの会場です。日本にも長野や帯広に屋内スピードスケート場がありますが、非常にシンプルな施設でした。風も寒さもない試合観戦は、札幌に住む者として非常に快適で、各国の応援団が声援を送っていました。滑走する選手を写す高速のカメラは、自走式でした。

(3) カーリング会場：

あの「そだねージャパン」の活躍した会場です。既存の体育館に仮設でシート(あの細長い氷の競技スペース)を作るために、冷凍設備や換気・暖房設備を仮設対応していました。カーリングの氷の特徴は、ペブルと呼ばれる粒状の表面を持つことであり、



既設体育館を利用したカーリング会場



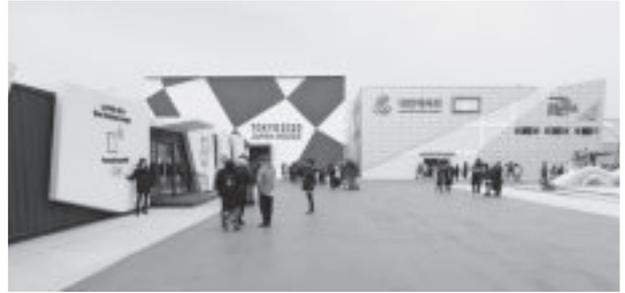
大改修したと思われる内部

スィープしてストーンの滑りを調節するため、氷表面に霜がつかないようにしたり、観客の熱で氷の状態が変わらないような工夫が必要です。そのため、カーリングは会場毎に氷特性が違うといわれており、韓国チームは、この会場で相当練習したのではないかと思います。

氷の具合を調整したり、室温を確保するための暖房の風が当たらないようにダクトを新設したり、かなりの工夫がみられました。札幌でも他の施設を利用してデリケートな氷づくりができるはずだと感じてきました。

(4)パビリオン：

先に記したように、カンヌンのパーク内には、多くの企業パビリオンがありました。中でもサムソンの施設は、最新機器の展示や企業の活動やオリンピックとのかかわりを展示するコーナーやVR技術を用いた体験コーナーもあり大変にぎわっていました。ジェットコースターや空飛ぶVRアトラクションの他、スノーボードやスケルトンなど競技を疑似



多くのパビリオンの中にあつたジャパンハウス



左がサムソンのパビリオン(右はホッケー会場)



VRでスノボを体験している様子(サムソンのパビリオン内)

体験できるものもあり、ICTオリンピックをアピールしていました。

他に、自動車ショールームを丸ごと作ってしまったKIA自動車などが目を引きました。パビリオンを巡るだけでもかなりの時間が必要です。他にノースフェイス、アリババなどのパビリオン。安倍首相や秋元札幌市長も訪れたジャパンハウス、韓国ハウスなどがあつたのもこのパークです。記念品のショップでは、公式クレジットカードしか使えない、公式飲料の関連飲料しか売っていないなどのスポンサーシップの徹底ぶりは、近代オリンピックの発展には欠かせない仕組みであったことを実感しました。

(5) その他：

食堂、キオスク、ガイドセンターなどもありました。大きな仮設テントの食堂では、ビビンバやうどんなど韓国とアジアのメニューなどが人気でした。残念だったのは、競技時間です。午前中の早くに競技があっても次が夕方からというプログラムが多く、昼過ぎの2時間くらいに人がいないことがありました。欧米のテレビ放送時間に合わせた競技時間によるとのことでしたが、オリンピックパークに長くいると気になります。



オフィシャルショップとレストラン(奥にホッケー場)



レストラン内部の様子

毎日ステージでは、音楽イベントやダンスパフォーマンスが行われていたり、エリア内を練り歩くパレードが開催されるなど、テーマパークや博覧会会場のような会場でした。



イベントステージ(あまり人はいませんでした。)



パレードの様子

4. 宿泊と交通：

ピョンチャンやカンヌンの宿泊施設は、オリンピックには足りなかったようで、ソウルのホテルに滞在しました。幸い、去年の12月に開通したKTXという韓国版の新幹線の5日間券を事前購入し、長距離(約280km)を毎日通うことができました。この移動距離を考えると、札幌～倶知安は、何の問題もありません。



開通したばかりのKTX

ただ、開通したばかりの、オリンピックの特別運行期間の座席予約状況がわかりづらく、夜間ソウルまで戻れるのか戻れないのかが不安になりました。KTXは、立席乗車にも定員があり、予約が取れないと乗れないため、夕方遅くからソウルに戻る便は、ほぼ毎日空席なしという状況でした。KTXは、ヨーロッパの鉄道と似ていて、改札はほぼない状態で、Eチケットを活用したものでした。車掌は予約状況と着席状況を確認しているだけなので、煩わしくなく快適でした。

会場の最寄り駅の情報やそこからの移動方法は、

初めて行く会場は、毎回人に聞きながらの移動となり、時間がかかってしまいました。



KTX カンヌン駅



新しい駅内部

韓国では、英語表記がまだ少なく、ハングルは読めず、中国語もハングルや英語との関係がわからないなど、特にソウル市内での移動が慣れるまで大変でした。日本の旅行会社のオリンピック用ガイドパンフレットがかなり役に立ちましたが、情報不足は、否めませんでした。現地で観覧ガイド (Spectator Transport Guide) やプログラムガイドを手に入れて初めて色々なことがわかる状況でした。

5. セキュリティ：

各会場でのセキュリティチェックは、なかなか厳しく、入場ゲートでバーコード付きのチケットを見せた上で空港の手荷物検査場のように、人の金属探知と手荷物検査を受けます。各会場で全ての観客にそのチェックを行うのですが、多くの係員が寒い中頑張っていました。飲み物の持ち込みも不可能で、中でスポンサー飲料を買うこととなります。平和の祭典であっても安全対策は万全と思われました。警

察官もかなり動員されているようでした。KTX 乗車時にも任意のようでしたがチェックできるよう金属探知ゲートが設置されていました。

6. 最後に：

ソウルから移動していると、オリンピックの飾りつけなども空港などでは目にしましたが、ソウルの町なかでは、あまり目にする事ができませんでした。オリンピックの機運を上げることは、大変だろうと思いました。ただ、会場では、本当に多くのボランティアが寒い中、大会をサポートしているのは、感心しました。

毎日、朝早くから夜まで競技会場に行っていたので、ソウルを楽しむ時間を確保できなかったことが残念でしたが、韓国の方々の気持ちは、あたたかく、会場移動の際にも親切にしてもらいました。次に韓国に行った時には、必ず焼き肉を食べてきます。

韓国でのオリンピックでは、多言語対応についてや、インターネットの活用方法など今後の大会開催に多くの課題やヒントがあるように感じました。札幌で再度オリンピックが開催されるのを期待して帰国してきました。

なお、今回の視察で世界に注目される国際大会の規模の大きさと運営の困難さ、スポンサーシップの仕組みなど様々なことを実感してきました。開会式のチケットが、良い席だと12万円以上するという事もわかりました。日本の水準ではなく、世界の標準も知る必要があると思いました。

オフィシャルで訪問された方のような詳細の報告はできませんでしたが、最後までお読みくださりありがとうございました。

また、このような視察と報告の機会をいただけたこと、関係の皆様へ感謝をいたします。

齊藤 文彦 (さいとうふみひこ)

技術士 (建設部門)

株式会社ドーコン

